

-101th Bungeiken Metropolis Seminar-

☆2023年12月3日(日) 13時~16時

☆全国教育文化会館エデュカス東京 6A会議室

(千代田区二番町 12-1/JR中央・総武線、「市ヶ谷」「四ツ谷」駅下車「日テレ通り」歩7分/メトロ 有楽町線「麹町」駅5・6番出口歩2分/元日本テレビ麹町ビル前(解体後、駐車場・番町の森公園に)、 セブン(電設健保会館 工事中)とダイケン・地学会館の間を入る。「ろうきん(労金)」の看板あり

☆テーマ 「わたしはおねえさん」(石井睦美 光村図書2年)

報告:泉川奈津子さん(東京文芸研 江東区小学校)

☆参加申込 次回も事務局・西さんのホスト役でハイブリッド方式で行います。 リアル参加は先着18名とさせていただきます。申し込みについては、リアル参加の方も下 記ピーティックスからの申し込みをお願いします。 リアル参加 500 円・オンライン参加 800円(会場費・資料代・システム利用料)

参加申し込みは https://bms202312-bungei-tokyo.peatix.com/ から

今後のBMS予定 (原則毎月第一日曜日 9~12時/会場確保が希望通りいかなくて変則になっていますのでご注意ください。)

1月14日(日) 13 時~16 時 全国教育文化会館エデュカス東京(麹町) 6A会議室 2月10日(土) 9時~12 時 全国教育文化会館エデュカス東京(麹町) 6A会議室 3月3日(日) 9時~12 時 同上予定

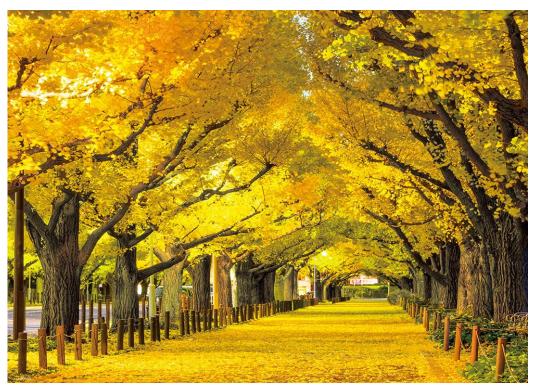
【文芸研東京学習会(BMS)連絡先】

上西信夫 □→nobu.uenishi@outlook.jp

学習会で扱う教材希望がありましたら上西までメールでご連絡ください。

東京文芸研学習会(BMS®12月開会)のご案内

-101th Bungeiken Metropolis Seminar-



■ 再開発で影響が心配される神宮外苑の銀杏並木/故坂本龍一さんも村上春樹さんも桑田佳祐さんも 浅田次郎さんも神宮外苑再開発に反対/ユネスコ・イコモスのアラート発生に強弁も。「三井のすずちゃ ん」やめた方がいいよ/十月の雨に学徒の出陣を見しや外苑の樹木危うし(中央市 前田良一「朝日歌壇」)

😈 阪神タイガースが 38 年ぶりの日本一。(ホークスファンの私は密かにパリーグのバファ ローズに肩入れしていましたが…)38年ぶりといえば、伝説の2000人集会・文芸研第 20 回広島大会 (1985年) 以来ということです。 セリーグ優勝の 18 年前は第 40 回大阪 大会に遡ります。「朝日歌壇」には類歌多く入選。

六甲おろし唄えよ歌えトラキチの亡き夫(つま)に告ぐ阪神優勝(枚方/鍵山奈美江)

十八年待ちに待ったる優勝に今生最後と言う人のあり(さいたま/松田典子)

阪神が負け続けていた日々に吾は子を授かった母をなくした(和泉/星田美紀)

♥11 月に入っても夏日が続き、「観測史上初めて…」「何十年ぶりの…」のアナウンスが続 きます。11月5日の11月例会も半袖でもいいくらいの気候の中行われました。多くの参 加者を得て(リアル参加 18 名、オンライン参加 16 名)、急遽会場を広い部屋に代えての 実施でした。(満員御礼)

№ 100 回記念企画として BMS 第 1 回目のテーマ「ごんぎつね」(新美南吉)をとり上げ ました。山中吾郎さん(東京文芸研・大東文化大🧸)が「『ごんぎつね』研究の現在」とし

て、文芸研の「ごんぎつね」の授業実践史、さらに「国語科教育の"トレンド"を反映した 『ごんぎつね』実践史」を俯瞰して整理。報告の後半は「『ごんぎつね』研究の"ホットス ポット"」ととして、①テキスト―草稿・定稿 ②6 場面〈兵十はかけよってきました〉の 視点論的解釈と相変移的解釈 ③〈お城〉の形象の象徴性と作品の思想 ④冒頭の〈これは、 わたしが小さい時に、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です〉の作品の構造、語り 継ぐことで、ごんが村人に受け入れられた話―贖罪・カタルシスと、様々な分析・解釈が交 錯する「ごんぎつね」研究を俯瞰して、文芸研の「ごんぎつね」研究・実践の到達点と西郷 文芸学理論で読む可能性についての重厚な報告でした。今回の山中報告は、「文芸教育」誌 上や実践研等で全国の文芸研会員と共有したい内容です。西郷会長の「すぐれた文芸という ものは人間の歴史的・社会的な存在としての本質、その諸関係の中におかれた人間というも のを典型的に描き出したもの」(「国民教育の課題」)というテーゼおよび、「教師のための文 芸学入門」の分析・解釈―形象論・視点論・象徴論―は、半世紀たった今も色褪せない輝き を放っています。残された問題は、作品の主題・思想を子どもたちの中に血肉化させること をめぐってのことでした。西郷会長が常に話していた「教材研究は"子どもの目"と"教師 の目"の両方ですること」を改めて思い出します。今後文芸研の実践史を対象化し、山中報 告の「『ごんぎつね』研究の"ホットスポット"」をも視野に入れた実践が待たれます。

②次回 12 月例会は、BMS と青年学校で学ぶ泉川奈津子さん(東京文芸研・江東区小学校)による「わたしはおねえさん」(石井睦美・光村図書2年)の報告です。この教材はBMSで初めて取り上げる教材で、例会での共同研究が楽しみです。

次回も事務局・西真由子さんのホスト役でハイブリッド方式で行いますが、リアル参加は **先着 18 名**とさせていただきます。<u>申し込みについては、リアル参加の方もオンライン参加</u> の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。

記

- 1. 期 日 2023年12月3日(日) <u>午後1時~4時</u> ハイブリッド方式 (いつもと時間設定が違いますのでご注意ください。)
- 2. 会 場 全国教育文化会館エデュカス東京 6A 会議室

(千代田区二番町 12-1/JR中央・総武線、「市ヶ谷」「四ツ谷」駅下車「日テレ通り」歩7分/メトロ有楽町線「麹町」駅5・6番出口歩2分/都バスバス停「番町」近く 元日本テレビ麹町ビル前(解体後、駐車場・番町の森公園に)、セブン(電設健保会館 工事中)とダイケン・地学会館の間を入る。「ろうきん(労金)」の看板あり

- 3. 内 容 **(2)** 「わたしはおねえさん」(石井睦美・光村2年) 報告: **泉川奈津子**さん(東京文芸研 江東区小学校)
- 4. 主催・参加費・申し込み 東京文芸研/リアル参加 500 円・オンライン参加 800 円(会場費・資料代・システム利用料)

参加申し込みは https://bms202312-bungei-tokyo.peatix.com/ から

(一週間前には申し込みができるように準備をします。問い合わせ 事務局・西さん)

例会後、例会で扱う教材以外の個別の相談にも応じています。事前に連絡をください。 カンとセンスとブームの国語の授業から、視点・形象の相関をふまえた切実な共体験の形成、 文芸体験の思想化・典型化の授業づくりをめざします。

23年7月29・30日の第57回山口大会、「国語の教室」、各地の講座で初めて文芸研の理論と実践に接し興味をもたれた方、国語の授業づくりに困っている方、深い学びをと願っている方、教職をめざしている方、青年学校受講生の方、各地のサークル例会が開催困難なサークル会員の方々…の参加をお待ちしています。

①インフォメーション

- ▼文芸研青年学校 11 月例会 11 月 11 日(土) 19 時 30 分~21 時 オンライン 「アナトール工場に行く」他 詳細は文芸研 HP をご覧ください。
- ▼八王子文芸研 11 月基礎講座 11 月 24 日(金) 18 時~20 時 八王子市立高嶺小学校(ハイブリッド方式) 「モチモチの木」(齋藤隆介 教育出版 3 年他)講師:上西信夫 詳細は文芸研 HP をご覧ください。
- ▼明星学園公開研 11月25日(土) 内田樹さん特別講演 詳細・申し込みは明星学園 HP をご覧ください。
- ▼文芸研中・高部会学習会 12月1日(金)20時~22時 オンライン 魯迅「故郷」 ▼文芸研冬の実践研究会 12月26・27日 兵庫県民会館(神戸市地下鉄「県庁前」 下車)来夏徳島大会全レポート検討(教材分析・解釈 授業構想編)

▽「文芸教育」(西郷竹彦創刊・文芸研編・新読書社刊) 好評発売中! 130号 特集「文芸研の授業づくり一たしかめよみ・共体験」/次号 131号 11月発行予定「文芸研の授業づくり一まとめよみ・典型をめざす読み」/129号 特集「新年度のスタート! 国語の授業づくりで大切にしたいこと」 各号 1500円+税 バックナンバーあります。年間定期購読をお願いします。例会でも用意します。

▽光村版・新教科書指導ハンドブック(学年別)発売中/新読書社より各学年 1700円 +税 セット割引有/この学年でどんな〈ものの見方・考え方〉を育てるかの観点で編集 ▽文芸研授業シリーズ好評刊行中! 第1弾「たぬきの糸車」(新読書社)・第2弾「一 つの花」・第3弾「おおきなかぶ」・第4弾「わらぐつの中の神様」・第5弾新刊「サーカ スのライオン」/教材分析と授業構想・授業記録がこの一冊に。板書や発問が参考にでき て、使いやすい・わかりやすいと好評。入門書として最適です。各1000円+税

「朝日歌壇・俳壇」より 子ども・学校・ことば・世相・ウクライナを詠む

「わっ」と言う訪問先のお客様私の肩に大きなバッタ(富山/松田梨子) 骨折の祖母に頼まれ水まけば一斉に庭のカエル飛び出す(富山/松田わこ) ブーメランみたいに平たい海ガメの赤ちゃんの手はつばさの形(奈良/山添聡介) かけ声は「1,2のさんごしょう」だった水族館の記念撮影(奈良/山添葵)

家族旅4人それぞれ希望地のプレゼンして待つ投票日(富山/松田わこ)

「六歳の俳句 孫娘とじっちゃんの十七音日記」(光文社)

微笑みに虹を残して子の眠る(日立/加藤宙2013)

こくどうにぞうきんみたいなたぬきかな(成田/かとうゆみ2021年1月24日初入選)

ゆっくりと見たり聞いたりカタツムリ(8月8日)

山ひとつ海に流して梅雨明ける(加藤宙)

九人に一人うえてるお正月

委員長にえらばれましたはつがつお

手を合わすことがたくさんの夏の雲

かなしみにふけばとばないしゃぼん玉

ウクライナに行かねばならぬサンタさん

「わたしはほかの人とちがって、ゆっくり歩いていないと見えないことがあるの。ゆっくり歩いていると発見できることがある。発見することが好きなわたしだから、俳句をつくることはわたしにあっていると思う」(かとうゆみ)

目を開けることに集中しすぎて授業の内容思ひ出せない(東京都/林真悠子)

中秋の家族カラオケ大会の優勝は母澄んだユーミン(富山/松田梨子)

百五十人分お抹茶の裏ごしをしました学園祭の前日(奈良/山添葵)

キスをした日から何をかもこれまでの景色の色が濃い何もかも (大船渡/桃心地)

これで今日二度目の通り雨に遭い変えてみたくなる生き方少し(富山/松田わこ)

月食のときだけ仕事休めます月のうさぎはいつも大変(奈良/山添聡介)

やっとえくぼができた初もみじ(成田/かとうゆみ)

この世には残業代と夜勤手当ありしこと知る教職辞めて(霧島/秋野三歩)

早朝の犬の散歩の時すでに人影見ゆる職員室は(大分/岡義一)

先生とわたしだけなのクラスでは子のつく女子がと孫の真子いふ(東京都/庭野治男)

祖母からも保育所からも忘れられ二歳児はただ待ちて待ちて逝く(福山/倉田ひろみ)

ドーナツをおやつに出せば小四の男子は視力検査を始める(奈良/山添聖子)

新米の出来を語るや小学生(横浜/橋秀文)

寺を継ぎ僧となりたる教え子に知らず知らずに敬語を使う(観音寺/篠原俊則)

どたどたと園児駆ければ川岸の亀が飛びこむどぼんどぼんと(知多/佃尚実)

少年野球の監督として日曜日非番の巡査校庭に立つ(三鷹/宮野降一郎)

捨て猫に給食のパンやりし子は牧場に住み馬の世話をする(横浜/和田順子)

いろいろとあるよねと言いいろいろを訊かず四人は二度目の乾杯(松阪/こやまはつみ)

ウクライナ七万ロシア十二万侵略なくば未だ在りし人(観音寺/篠原俊則)

テレビ付きドア・ホンつけて人を待つ三日目カケス五日目タヌキ(長野県/千葉俊彦)

正確に言えばこうなる「トリチウム微量残留汚染処理水」(朝霞/岩部博道)

髪切ったことに気付かぬ夫ならば毒盛られてもきっと気付かぬ(戸田/蜂巣幸彦)

きび砂糖の甘味の底の沖縄の悲しみ思い大さじ二杯(福島/美原凍子)

山あいを走る列車はファスナーを閉じゆくように駅をめざせり(大阪/多治川紀子)

この国は炎暑がトップニュースなり七十八年戦 (いくさ) なき国 (東京都/上田国博)

モノクロで見るものだった戦争が4K となり今起きている(横浜/菅谷彩香)

処理水の海への放出始まれば原発の可否あらためて問はむ(鎌倉/石川洋一)

台所に芋栗南瓜(かぼちゃ) そろひけり(下呂/川尻伸子)

俳壇の句評よこがき涼新た(彦根/阿知波裕子)

動かぬ躯(く)叫びたき日よ獺祭忌(山口県平生町/平岡久美子)獺祭忌9月19日子規の号獺祭主人(だっさいしょおく)にちなむ。糸瓜忌とも

汀女忌ややつと涼しくなる日影(越谷/花井芳喜代)9月20日

つみびとの如くあふれて老人の日(東京都/各務雅憲)

余生なを夢のあれこれ新松子(しんちぢり)(東京都/三角逸郎)まつかさ・まつぼっくり

新変異株の名前が「エリス」とは草場の陰の鴎外唖然(五所川原/戸沢大二郎)「舞姫」

ひぐらしの遠くしづけきこの夕べ汚染処理水潮に混りぬ(小美玉/津嶋修)

デイケアで叔母が覚えし「こんにちわ」にインドネシア語ベトナム語あり(東京都/三神玲子)

六甲おろし唄えよ歌えトラキチの亡き夫(つま)に告ぐ阪神優勝(枚方/鍵山奈美江)

十八年待ちに待ったる優勝に今生最後と言う人のあり(さいたま/松田典子)

年功と派閥が大事と言えぬからとりあえず言う「適材適所」(中津/瀬口美子)

「寺務所迄連絡求ム」墓石に吊るすA4また増える夏(東京都/浅倉修)

どこでもドア色なき風の通り抜け(福岡/釋蜩硯)

白桃は天の乳房か吸い尽す(市川/吉住威典)

八百比丘尼歩いても歩いても銀河(草加/近藤加津)不老長寿

升 (のぼ) さんが好きで糸瓜を育てをり(今治/横田青天子)糸瓜忌・子規忌/常規←升←処之介/幼名のぼる→野(の)球(ボール)

いちじくのジャムは悪魔の手先なり(岡山/曽根ゆうこ)

アーモンドミルクの朝賢治の忌(別府/樋園和仁)9月21日歿

職業は介護従事者職場では全員マスク目力が要る(横浜/桑田よし子)

ドットとは何であるかと父問へり | T 知らぬ生もよきかな(加東/藤原明)

沖縄の苦難の歴史をジュネーブで世界に訴える玉城デニー知事(八尾/宮川ー樹)

福来旗(ふらいき)に集魚灯(あかり)で応え出漁す秋刀魚船団白波たてて(気仙沼/及川睦美)大漁旗

阪神が負け続けていた日々に吾は子を授かった母をなくした(和泉/星田美紀)

子どもらと肉天食べし来々軒娘が継いでカフェらいらいに(東京都/岡純)

十月の雨に学徒の出陣を見しや外苑の樹木危うし(中央/前田良一)

人の手で掘られた間歩(まぶ)は銀山のタイムトンネル出れば蝉鳴く(出雲/塩田直也)坑道

水音のひびきはつかに秋めきて今朝の厨の蛇口光りぬ(福島/美原凍子)

「カルピス」は内モンゴルがルーツとは知らずに飲んでた初恋の味(茅ヶ崎/藤原安美) キャッチコピー 戦争をしたがる人は行かぬ人御霊に哀悼捧げるだけで(東京都/塩田泰之)

女性閣僚一人だに異議を唱えざり「女性ならではの感性」か、それ(水戸/中原千絵子)

本人にハラスメントの自覚なしハラスメントはそこが肝だと(富士/村松敦視)

人材か人手かで差がある時給高校生は人手なんだね(浦安/野田光男)

私がしたことにまちがいありませんゴーヤを置いて書店出ました(日立/加藤宙)かとうゆみさん祖父 泊夫藍(サフラン)や蘭学という言葉古(ふ)り

鬼やんま交尾(つる)めば生(あ)るる大八洲(おおやしま)(藤沢/朝広三猫子)

草の葉の先に蝗(いなご)の重さかな(静岡/松村史基)

標的の基地の沖縄蟻地獄(福島県伊達/佐藤茂)

訪露してロシアの勝利を信じると言いし日本の国会議員(観音寺/篠原俊則)

包丁の手を止め火を止め息を止め草雲雀(くさひばり)聴く朝のキッチン(中津/瀬口美子)

食べていない期間= (イコール) 祖母のいない時間となりしずいきの炊いたん(奈良/山添聖子)

啄木の三倍生きて花屋の前通りすぎけりある歌思う(大和郡山/四方護)友がみなわれよりえらく見ゆる日 よ花を買い来て妻としたしむ(「一握の砂」)

漢字四文字の姓に憧れ列挙せり武者小路万里(までの)小路勅使河原(てしがわら)長宗我部(船橋/佐々木美禰子)

母さんはもの書きになるには闇が足りないと娘が言う隠せているのだな、闇(呉/今泉洋子)

「レカマネブ」承認された薬の名忘れる前に覚えられない(千葉/杢原美穂)アルツハイマーの新薬

なんだみな同じ思いか旺文社赤尾の「豆単」復刻版ある(大和郡山/四方護)

駅前の更地となりし古書店のはたきの親爺の今を思えり(観音寺/篠原俊則)

虎キチで里騒がせし亡き夫の名を人ら言う阪神勝ちて(飯田/草田礼子)

短歌では嘘はついてもいいのよと俵万智氏が楽しく語る(千葉/甲本照夫)

検体の遺骨が届く郵便で時代もそこまで来たかと溜め息(福島/釋正宏)

「唯生きてゐる」と記しし同年の荷風の日記に傍線を引く(東京都/豊万里)「断腸亭日乗」

赤い羽根長とつく人みな胸に(赤穂/矢野君子)

みちのくの秋刀魚押し戴きにけり(尼崎/田中節夫)

秋風や珠に冷や酒旨き頃(東かがわ/桑島正樹)

戦争の野蛮語るや文化の日(東京都/片岡マサ)

和訳した"I miss you"を伝えたい「夕日がとても綺麗だったよ」(神戸/浅野月夜)

はいはいとはいとは一いを使い分け、内なる富士のふんかを防ぐ(春日部/宮代康志)

デ・キリコの少女にふっと会えそうな街中の午後ペタル踏みゆく(高山/松井哲朗)形而上絵画派「通りの神秘と憂愁」の少女のことか

親族は他人同士の集まりで赤ちゃん一人が皆とつながる(東京都/上田結香)

「初冠雪」と聞けば清らかな気持ちになる遠い日君と初めて会った日(東京都/上田結香)

九月田のなかに分け入り荒稲(あらしね)の三粒を噛みぬ明日、刈り取らむ(戸田/蜂巣厚子)

バーレーンの何も知らずにバーレーンのカニを茹でており秋の厨に(福島/美原凍子)

食料品買いきてながめ今更に壱万円の価値をうたがう(横浜/白鳥孝雄)

獄中の人となりても「引き下がらない」モハン マディさんノーベル平和賞(安中/鬼形輝雄)

獄中で闘ひ続くる人もあるに我は娑婆にて無為に生きたり(朝霞/岩部博道)

〈春夏冬中〉(あきないちゅう) 本当になくなりそうだから一杯飲んでいこう(袖ヶ浦/一尾弘志) 秋がない→商い中の判じ物

寒昴(かんすばる)さらば谷村新司逝く(愛知県阿久比朝/新美英紀)冬の季語

翔平と聡太が並ぶ案山子かな(大阪/井上浩世)

十字架を背負ふイエスと案山子かな(大村/小谷一夫)

今後のBMS予定 (原則毎月第一日曜日)

1月14日(日) 13時~16時 全国教育文化会館エデュカス東京(麹町) 6A会議室 2月10日(土) 9時~12時 全国教育文化会館エデュカス東京(麹町) 6A会議室 3月3日(日) 9時~12時 全国教育文化会館エデュカス東京(麹町) 予定



■日光の紅葉(中禅寺湖)10月30日/今年も4時起きで紅葉狩りに出かけた高齢ドライバー。「クマ出没注意!」の看板に慄きながら数時間のハイキングを満喫。帰路は金精峠を越えて片品村の立ち寄り湯にて一息。

【東京文芸研学習会(BMS)連絡先】

上西信夫 □→nobu.uenishi@outlook.jp □→080-3253-4742

学習会で扱う教材希望がありましたら上西までメールでご連絡ください。